

■After		求道学舎			
建築名称 下段: 英語名					
建築用途		大分類 住居施設	小分類	コーポラティブハウス	
改修設計者		近角建築設計事務所 集工舎建築都市デザイン研究所			URL
所在地		東京都文京区本郷6-20-5			Google Map
改修年		2006年	旧建物	1926年	
建築規模		鉄筋コンクリート造3階建て、延床面積:768.01㎡			
掲載書誌		新建築2006年8月号			
賞・選定		2008年日本建築学会賞(業績)			
資料・その他		平面図			URL
■Before		旧求道学舎		概要 before	
建築名称				武田五一の設計で1926年に竣工した学生寮。鉄筋コンクリートの壁で包まれた6畳の2部屋が片廊下で並ぶ構成。水洗便所や食堂・浴室は共用	
建築用途		大分類 住居施設	小分類 寄宿舍		
■写真 Before		改修前の廃墟状態の内観。左: 共用通路、右: 共用通路端部の階段		After	
					
					
撮影者 提供: 集工舎		撮影者 撮影: 堀内広治(左)、藤塚光政(右) 提供: 集工舎		撮影者 桐原武志 2026年撮影	
■リノベーション内容		キーワード 用途変更、スケルトンインフィル、痕跡、文化財 内容 ・文化財建物を活かす・武田五一の設計による、6畳一間の寮室2間をRCの壁で区画した男子学生寮をスケルトンインフィルの「定期借地権+コーポラティブ方式」の11の住戸にリノベーション。建物の面積と高さ、開口部の位置、耐震壁の配置は動かさず3.1m〜3.6mの高い階高を活かして、寮室2間と共用部の廊下を取り込んだ11の固有の空間を有する住居にリノベーション。各階の共用便所のスペースをエレベーターシャフトとして活用し、壁量の余裕を活かし南側の窓幅を900mmを1,200mmに広げ居室の住環境を向上させている。 ・コーポラティブ方式・コーポラティブハウス方式により、武田五一設計の建物の魅力を感じている人が集まり居住者になる。 ・耐震強度・関東大震災後、当時の最新の耐震思想で建てられた求道学舎はバランスの良い壁の配置とコンクリートの状態も8割が良好であった。不良部分は取り除き、新たな鉄筋コンクリートを投入し、中性化についても躯体外側にポリマーセメントモルタル、吹付コンクリートで覆うことで対応し、今後も良好な状態を維持することが出来る。			
■備考		「定期借地権+コーポラティブ方式」による住宅については、アーケブレインのWebsite「求道学舎リノベーション住宅」をご覧ください。URLは <a href="http://www.abrain.co.jp/estate/hongo">http://www.abrain.co.jp/estate/hongo</a> です。			
■作成者 氏名/所属		桐原武志 / Free JIA再生部会		作成協力者	集工舎
				整理番号	